【事業名】アメリカザリガニ防除による旧品井沼周辺ため池群自然再生モデルの構築（宮城県大崎市）　【団体名】旧品井沼周辺ため池群里山未来拠点協議会

令和5年度　生物多様性保全推進支援事業
実績報告書別紙10－６

事業の背景・目的

全国15万個のため池は里山の豊かな自然を構成してきましたが、その多くでアメリカザリガニが侵入繁殖し生態系が崩壊しています。本事業では地域住民主体でアメリカザリガニ防除と生態系復元に取り組み効率的で低コストの低密度管理方式を確立します。持続的な防除を可能にするため、捕獲ザリガニの有効活用を促進、販売により防除経費を捻出します。得られた知見を基に協議会で議論しながら、長期継続可能な里山の生物多様性復元・保全モデルを構築し、シンポジウム開催などで全国へ提案します。

簡単に大量捕獲できる連続捕獲装置

ア）低密度管理経費削減実証化事業

①低密度管理捕獲の継続
地域住民が中・大規模ため池で捕獲による低密度管理を継続

②誘引餌のコストダウン実証実験
価格上昇したドッグフードに代わる低価格の米糠利用の実用化

小型専用トラップ　人工水草

連続捕獲装置と小型ザリガニ用トラップ・人工水草で大量捕獲を継続

これまでのドッグフード（上）に加えて米糠（下）の導入を検討

イ）捕獲ザリガニ有効活用事業

①大型ザリガニの有効利用技術開発
・塩水飼育装置の整備と塩水飼育ザリガニのメニュー開発と試食
・中華料理新メニュー開発と試験販売（聚鮮楼）

②小型ザリガニ利用技術開発
・ビスクスープ試作と改良
・ビスクスープの調理と缶詰の試作

ザリガニビスクスープ缶詰の試作、ザリガニのミンチと野菜の分量を変えて比較試験

ウ）保全モデル構築・情報発信事業

①モデル化に向けた協議：総会を2回開催、自然共生サイト登録と企業連携等の事業方針承認

②啓発活動・情報発信：
・試食会：10月、内外40名が参加、好評。
・シンポジウム開催：①全国シンポ、11月古川市、全国から80名が参加、新知見を発信　②ミニシンポ・地域研修会：2月、モデル化事業等を紹介、地域住民と意見交換

ザリガニ料理の試食会（左）と全国シンポジウム（右）を開催

得られた成果

1）アメリカザリガニを大量捕獲する簡単ツールを使うことにより、住民主体で大・小ため池の低密度管理が可能であることを引き続き確認した（図1）。
2）低密度管理を長期継続中のため池では、今年度調査でトンボ類ヤゴが急増し人工水草1個当たり約100尾が確認され（図2）、貝類、魚類、両生類も顕著に増加（図3）。
3）米糠による捕獲量はドッグフードに比べ、通常1～3割下回ったが、30℃以上の高水温時には0～2割上回った。
4）ザリガニの呈味向上を図る塩水飼育について適正飼育密度を求めた。
5）ザリガニ試食会でビスクスープと塩水飼育ザリガニボイルが好評だった。
6）全国向けシンポジウムと地域向けシンポジウムを開催、情報・意見交換した。

図1

図2

図3 アメリカザリガニの低密度化により、二枚貝❶、ゼニタナゴ❷、ミヤケミズムシ❸、トビケラ類❹、トンボ類❺、アカガエル❻等が増加。